



CASE 02

KANA
GAWA
FUJISAWA

RENOVE
ROYAL
神奈川県藤沢市

GQ
RENO→
VATION

配線を工夫することで、 ホームシアターもすっきり。

シンプルかつ上質な 部屋作りのコツとは？

玄関を入り、中扉を開けると、広いリビングが広がる。一見するとシンプルだが、そこここにこだわりが見られるのが、この部屋の特徴。「無駄のない自然な箱を作りたかったんです。でも、柔らかい印象もたせたかった。なので素材感にこだわりました。壁や天井を白くして、床や扉などはオーク材で統一。キッチンステンレスがアクセントになります。基本的にたくさん素材を使わずに統一感をもたせるのが好きなんです」と、リノベーションのプロデューサーでもある施主。

その好みは家具選びにも表れている。白いソファはイタリアのデザイナー、ピエロ・リッソニがデザイン。ラグはスウェーデンの高級ラグメーカー、カスタール社製。ラグの赤色に合わせて、クッションにも赤を用いている。キャビネットは、1950年代の米国のアンティーク。素材は異なるが、色みを調節することで、統一した世界観を作っている。「建築も洋服と同じコーディネートだと思っています。また、箱だけでなく家具も重要。リノベーションのプランを進めるときは、家具も一緒に考えることをおすすめしますね」

しかし、それだけが特徴ではない。この部屋にはテレビがないことにお気づきだろうか？ この家具の配置は、ホームシアターシステムのために考えられたものでもあるのだ。

RENOVATION POINT

システムを一括で
コントロールする。

D-VHS やブルーレイ、プレス
テ3、CD プレイヤーなど古い
ものから最新のものまで、
AV 機器が並ぶ作り付けのシ
ェルフ。ここに一括したシス
テムをもってこることで、ホ
ームシアターをコントロール。
これも隠蔽配線だからこそ、
できたことだ。収納家具のほ
とんどは作り付け。





03

RENOVATION POINT

オリジナルキッチンで 収納下もスマートに。

キッチンの収納扉を開くと、床をそのまま引き込んでいるのが分かる。「既存のキッチンだと床に設置することになるので、どうしても段差がついてしまう。オリジナルを建築と同時に作ってしまうからこそ、できることだと思います。小さな要望を実現できるのもリノベーションならではの。



自邸兼リノベーションを考えている人のためのショールームでもある。このほか、ストレージルームもある。
建物形態：マンション 築年数：29年 床面積：76.50㎡
物件価格：1,400万円 リノベーション費用：1,600万円
居住者：男性1人 設計：湘南リノベーション

天井に取り付けられたのは、ソニーが開発していたAV機器の高級ブランド、クオリアのフルハイビジョン液晶プロジェクター。それを120インチのスクリーンに映し出し、臨場感たっぷりの映像や音を楽しむことができる。

「たまたまシヨールームでのプロジェクターを見て、打ちのめされました。それまでもいくつか見ていたのですが、ぼやっとしていてそれが限界なのかな、と思っていた。でもこれは格段にきれいだったのですね、さすが購入しました」

ホームシアターシステムのための正面のスピーカーとサブウーファーは、英国のB&W社のもの。後ろの壁には同じく英国リン社のスピーカーが4本、取り付けられている。

「プロジェクターを付けるため天井を補強。さらに、すべての配線を埋め込んだので、部屋がすっきりして見えると思います」

それは、まさにリノベーションの醍醐味。既存の空間にホームシアターを作ろうと思っても、ケーブルが見えてしまったりなど、うまく収まらない場合がある。しかし、リノベーションならば、システムを組むことを前提に最初から隠蔽配線にするなど、自分のスタイルに合わせて自由に設計することができるのである。

自分にとって何が必要か。それを考えることからリノベーションは始まる。過不足ない暮らしを実現できること。それがリノベーションの最大のメリットといえるだろう。



04

01. 奥のキャビネットは1950年代のアメリカのもの。家具の色みを揃えることで、空間に統一感が。02. リビング空間。天井高の低い日本の家屋に合わせて家具の高さも低く抑えている。03. 本棚も作り付け。車や『スター・ウォーズ』関連の書籍など、施主の趣味が反映された本が並んでいる。04. オリジナルのキッチン。カウンターは食事が正しい姿勢で取れるよう、低めに。食器棚もオーク材の作り付け。表面をソープフィニッシュで仕上げている。

CASE_03

KANA
GAWA
FUJISAWA

Field
神奈川県藤沢市

とことん施主と向き合う から可能な空間。

壁が抜かれ、天井もむき出しになったスケルトン状態の室内。これがリノベーション前の姿である。その、ほとんど解体された状態の物件にやってきたのは「湘南リノベーション」の代表である吉原健太（写真右）と施主のふたり。

藤沢に住みたいと、物件探しから「湘南リノベーション」に依頼した施主は、男性ふたり。「中古マンションをリノベーションするというのは、最初からのプランです。新築や賃貸だと自分たちのスタイルを既存の空間に合わせなければならぬ。それがイヤでした。リノベーションならば、自分たちの生活スタイルに合わせてた

施主の希望を現実に。
プロのアイデアも冴える、

信頼できる リノベーション。

リノベーションのプロ「湘南リノベーション」がブログで経過報告する、藤沢市の物件を訪問。生活スタイルに合わせた空間をゼロから作り出せるのがリノベーションの魅力だという、そのリアルな声を聞いてみた。

空間を作ることができる。それが最大のメリットだと思います。ただし、一軒家だとふたりで住むには大きすぎるので、必然的にこの形になりました。「湘南リノベーション」と初めて出会ったのは2007年8月。それから3年後の10年1月に相談を再開し、物件探しをスタートした。条件が明確だったせいで、2軒目の内見ですんなりと購入が決定。

「こちらの会社に依頼したのは、まずは地元の物件に強いこと。そして、とても親切に対応してくれたことです。リノベーションにあたっては1回2時間程度のヒアリングを毎週、行いました。また、最も大きなポイントは価値観が共通していること。僕らのライフスタイルをきちんと理解し

てくれ、そのうえでアイデアを出してくれるので、安心しておまかせできると思いました」と、施主。

リノベーションについては、まずはプランを用意してもらい、それをたたき台に細部を詰めていった。壁や床材も予算範囲内で選択肢をもらい、そこから決定。希望をかなえるための、さまざまな方法やテクニックを細かく伝えてくれたことも、信頼につながったようだ。



半透明のFRPの棚で仕切るアイデアを提案し、ワンルームながらそれぞれのプライベート空間も確保。窓が多く、光がふんだんに入る利点を生かした間取りに。
建物形態：マンション 築年数：25年 床面積：59.78㎡
物件価格：1,800万円 リノベーション費用：850万円（予定） 居住者：友人2人。JR 藤沢駅から徒歩11分。

01. 3月。物件決定。当日に総予算の概算を出し、借入金額を決めて銀行と金銭消費貸借契約を結ぶ。02. 3月。収納について打ち合わせ。ディスプレイ収納のアイデアも相談。03. 4月。床材、ユニットバス、トイレ、ランドリーを決めるためショールームを訪れる。初期の段階で総予算を把握するためには決められるものは早めに決めるのがコツ。

